



## 令和6年度 マイスター・ハイスクール事業 成果発表会

拠 点 校：八代工業高等学校（先導校）・玉名工業高等学校・阿蘇中央高等学校・天草工業高等学校  
管理機関：熊本県教育委員会・熊本県商工労働部

熊本県版マイスター・ハイスクールによる持続可能な産業人材の育成  
～自律的に学ぶ生徒を育てるための学校と産業界の絶え間ない協働～

# 実践報告の流れ

1

令和5年度までの指定校の成果と普及に向けた課題

2

熊本県版マイスター・ハイスクールの事業設計

3

令和6年度の普及促進に向けた取組

4

令和6年度の各拠点校の取組

5

令和6年度の課題と令和7年度の方方向性

# 令和5年度までの指定校の成果と 普及に向けた課題

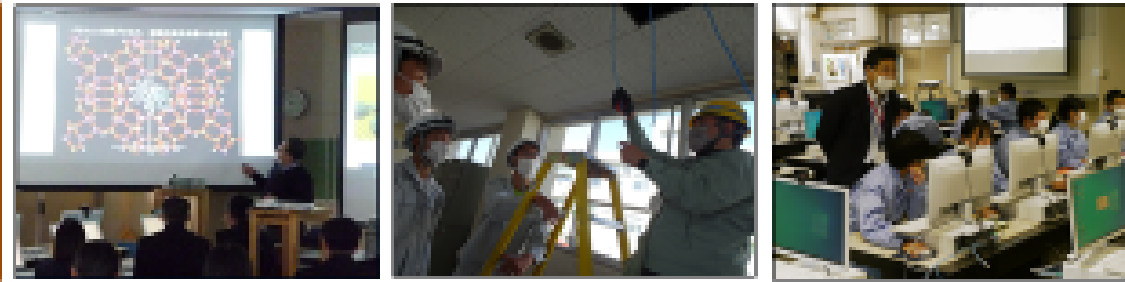
# 1 マイスター・ハイスクール事業 (R3～R5)



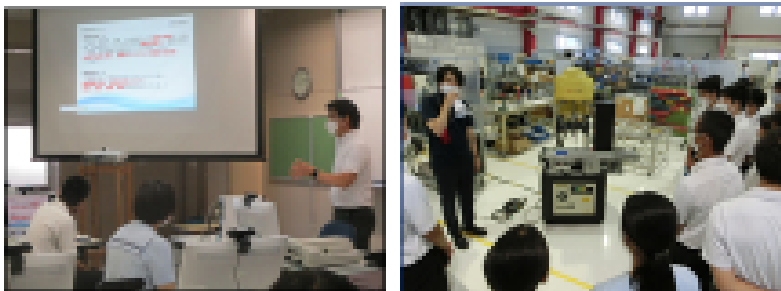
優れた人材や技術の「X(融合)」を追究し、DX時代の夢をつなぐ創造的エンジニアの育成  
～くまもとはじまる産業人材育成エコシステム～

## マイスター・ハイスクール事業の目的

- ①デジタル社会・これからの社会で活躍できる生徒の育成
- ②産業界が必要とする教育への刷新
- ③地域産業・地域社会の理解を通じた関心と貢献の意欲向上
- ④専門高校生の地域での活躍の機会を拡大



## 現代・未来に必要な教育の追求



## 3年次(創造的思考力の育成)

- 新たな学びを見いだす力
- コトづくりにつながる価値創造力
- 発想力・デザイン力

## 2年次(課題解決へ向けて)

- デジタル機器活用に関する専門的な知識・技術
- 課題解決へ導く力
- 主体的行動力・協働力

## 1年次(最新のデジタル技術に触れる)

- デジタル機器活用によるコミュニケーション能力
- 課題発見力・課題解決の意欲
- 工業に関する知識・技術への関心

## マイスター・ハイスクールビジョン

- ・産業人材育成エコシステムの構築
- ・産業分野の融合につながる各種最先端デジタル技術の習得
- ・県内企業等の施設・設備を活用した授業・実習の実施
- ・課題の発見・解決や技術革新を追究する人材の育成
- ・コトづくりにつながる創造的思考力の育成
- ・熊本の創造的復興を支える産業人材の育成

CEOによるマネジメント

Synergy System

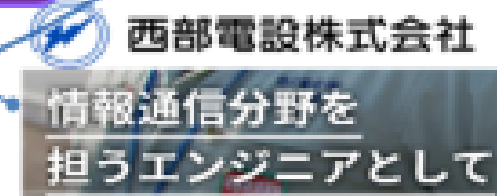


九州デジタルソリューションズ



工業化学分野とデジタル技術

工業化学科



機械科

産業実務家教員による指導

産業界等との教育の連携・社会と繋がる教育

情報技術科

電気科

LAN構築

明日に、答えを。

DB/RPA  
設計・構築

インテリア科

企業視察

○学校視察

企業実習

○HIS型インターンシップ

地域連携

○課題研究  
○実習

産業講話

- 企業が求める人材
- 地元企業の魅力等

構造計画研究所  
KDDO KENKAKU ENGINEERING INC.  
- KKE Voice -



BIMソフトの活用

KIS



学

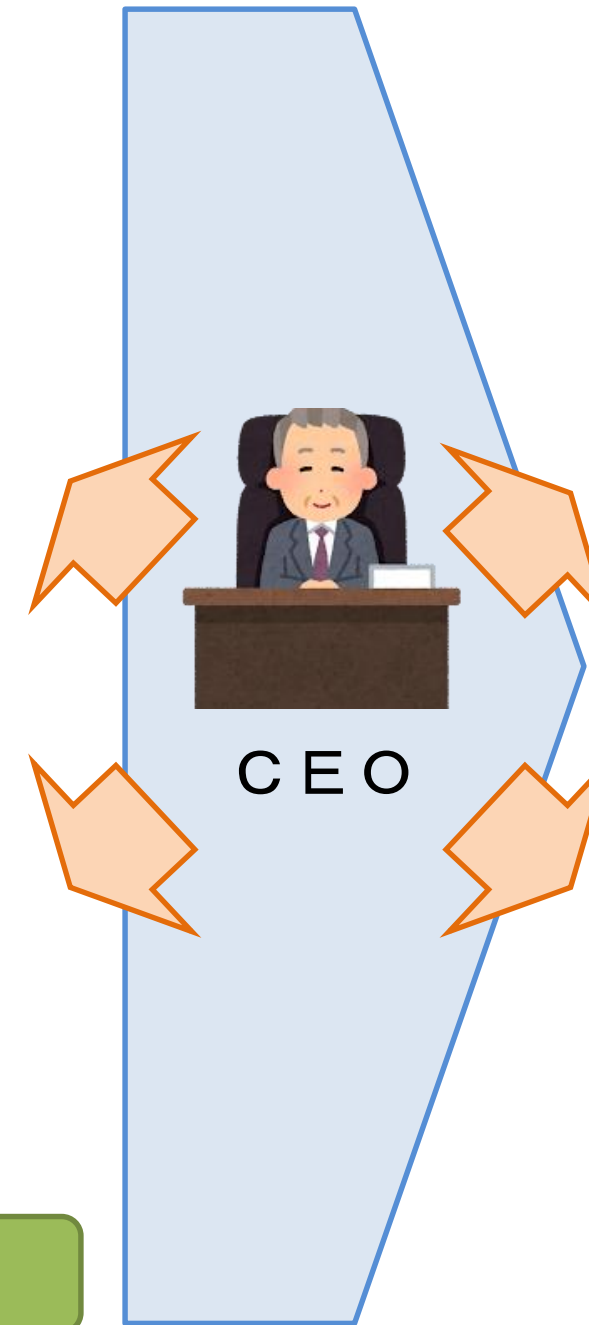
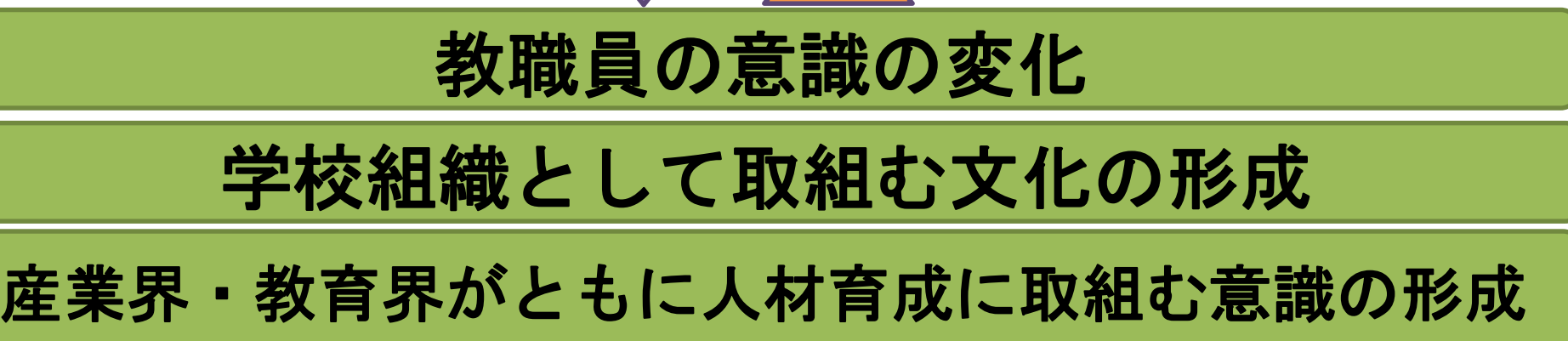
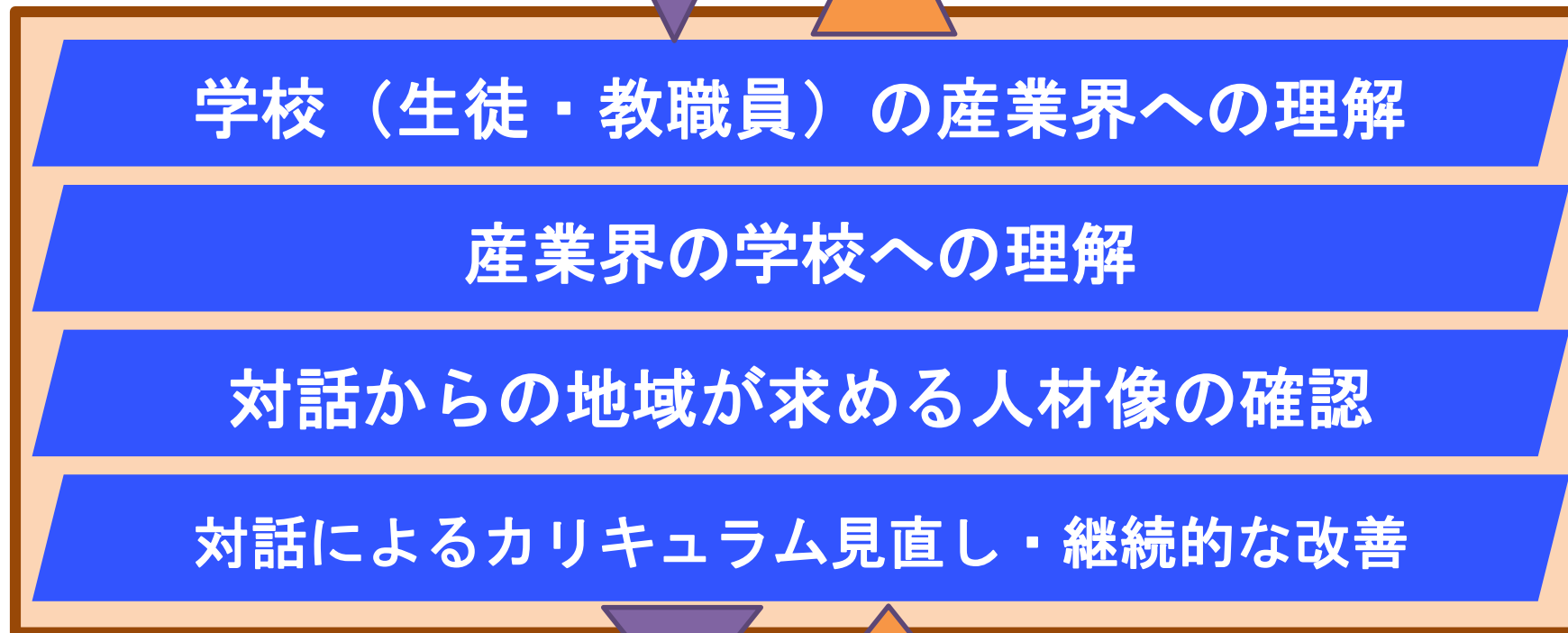
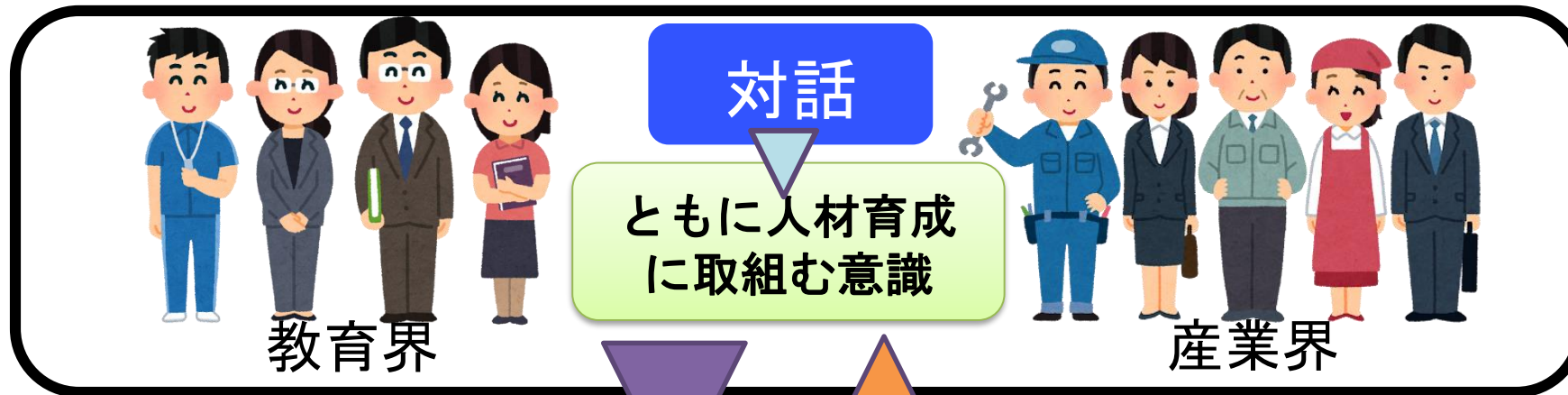
官

産

# 1 マイスター・ハイスクール事業 (R3～R5)

マイスター・ハイスクール事業とは、企業に学校で授業をしてもらうことではない

八代工業高等学校の研究実施報告書より



学校教育目標への反映

校務分掌への位置付け



インテリア科



機械科



工業化学科



電気科



情報技術科



出前授業

# 1

# 普及促進を図る上での課題

今後

全熊本県立高校への普及

熊本県版マイスター・ハイスクール（KMHS）R8～

課題

CEOの役割をどうするか？

産業界と教育界を繋ぐ役割（つなぐ）

事業を校内組織で推進する役割（進める）

産官学金の目線をどう合わせるか？（関係者全てが当事者になるため）

自律的・持続的な取組みにするためにはどうしたらよいか？

必要なリソースをどうするか？（ヒト・モノ・カネ）

連携先企業、産業実務家教員をどう確保するか？

生徒の実習先への交通費をどうするか？

産業実務家教員への謝金・交通費をどうするか？

最新の技術に対応した施設・設備をどうするか？

## 八代工業高校の指定校としての成果

全県立高校への普及 → 「開かれた教育課程」の実現

## 『熊本県版マイスター・ハイスクール』の理念を整理

- マイスター・ハイスクールビジョンを産学官金の共通目標として  
生徒が夢を見つけ、夢を持って生きることができる未来を目指して
- 地域社会・産業界に求められる人材を育成するために  
学校の目標や育成したい資質・能力を、産業界や地域とともに考える
- 学校、産業界、基礎自治体は、ともに人材育成に取り組む「パートナー」  
互いを理解・尊重し、対等な関係で対話を重ねながら人材育成に取り組むこと
- 自律的・持続的な取組みとするために  
地域を核とした産官学金と連携した学校組織としての持続的な取組みとする
- 産業界と連携したカリキュラム改善のサイクルの確立  
産業界と連携したカリキュラム改善など常に成長する取組みとする

## 2

# 産学官金共通の目標設定

熊本県版マイスター・ハイスクールビジョン

夢を見つけ、夢をもって生きることができる未来

- 1 主体的・創造的な次世代人材の育成
- 2 異なる分野や多様な人々と協力して創造・課題解決する人材の育成
- 3 現代の社会・産業界を理解し、目標を持って取り組む人材の育成

生徒の成長のために

夢に向かって挑戦できるように

地域社会とともに

社会の課題に取り組んでいく

産業界とともに

革新的職業人材の育成に向けて

産・官・学・金連携のための  
県教育委員会のマネジメント

熊本県版マイスター・ハイスクール事業の推進

県下の産学官金が

同じ目標を持って

人材育成に取り組む

熊本県版  
マイスター・ハイスクールの事業設計

熊本県版マイスター・ハイスクールによる持続可能な産業人材の育成  
～自律的に学ぶ生徒を育てるための学校と産業界の絶え間ない協働～

## 管理機関

熊本県教育委員会  
熊本県商工労働部

アドバイザーボード  
として助言

### 事業運営委員会

(年2回)

事業実施の意思決定、「マイスター・ハイスクール」のビジョン策定、熊本県の産業教育の在り方について

- 熊本県教育長（学校設置者）
- 熊本県商工労働部長（地方自治体）
- 熊本県産業政策名誉顧問 村山 伸樹（産業政策）
- 一般社団法人熊本県情報サービス産業協会長 足立國功（産業界）
- 肥後銀行頭取 笠原 慶久（地方創生）
- 一般社団法人熊本県工業連合会長 田中稔彦（産業界）
- 熊本大学理事・副学長 宇佐川毅（産学連携）
- 熊本大学教育学部准教授 高崎文子（評価検証）
- 武蔵野美術大学造形構想学部教授 若杉浩一（STEAM）
- 各拠点校校長

### 事業推進委員会

(年3回)

事業実施の具体的手法等について検証、改善、課題解決

- 一般社団法人熊本県情報サービス協会事務局長
- 肥後銀行地域振興部長
- 一般社団法人熊本県工業連合会事務局長
- 熊本大学工学部長（高等教育機関）
- 熊本県教育庁県立学校教育局 高校教育課長
- 熊本県商工労働部産業振興局産業支援課長
- 拠点校立地市町村関係課長
- 産業実務家教員・協力企業代表
- 各拠点校校長、研究主査・副主査、学科主任等

## 産業界（産官金）

産業実務家教員の派遣（授業・実習）  
企業実習・見学の受け入れ  
カリキュラム開発への協力

熊本県情報サービス産業協会

熊本県工業連合会

肥後銀行

地域企業・団体

産業実務家教員企業

市町村自治体

地域の産官学との繋ぎ  
地域課題の共有  
学校への支援

ニーズの把握

依頼・調整

産学連携コーディネータ  
高校教育課

ニーズの把握

依頼・調整

育成すべき資質・能力を  
共有した上での連携

## 学校

八代工業高校

玉名工業高校

天草工業高校

拠点校  
4校

阿蘇中央高校（農業・商業・福祉・普通）

### 先導校

産業界と連携したカリキュラム開発の深化・発展・整理  
新規拠点校へのノウハウの共有・助言

各学校が設置

校内運営委員会

育成すべき資質・能力の明確化  
連携内容・方法の協議、評価、改善 等

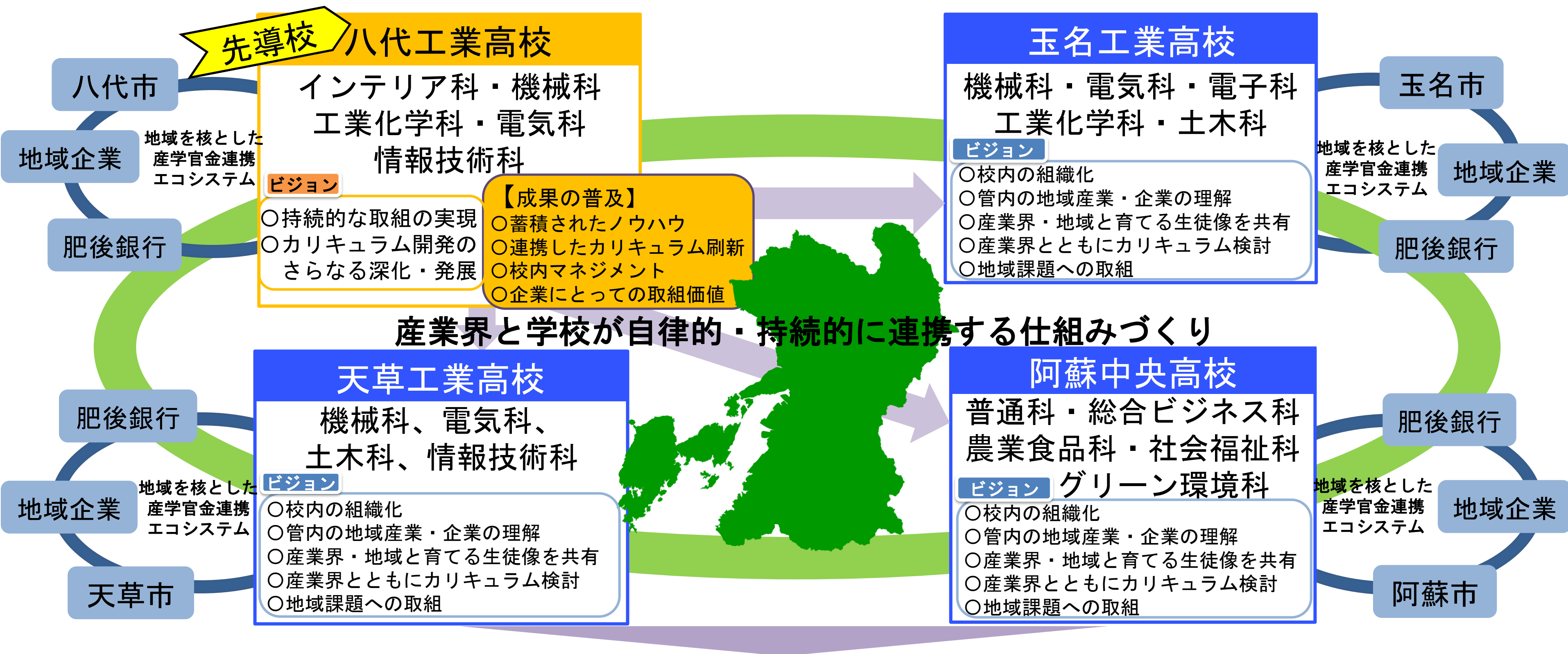
### 新規拠点校

地域との連携強化による体制の枠組みづくり  
産業界と連携したカリキュラム改善  
市町村産業関係課との課題の共有  
産業実務家教員による授業の実施、企業実習・企業見学  
市町村教育委員会との連携による中学校への出前授業など

各学校で活用

学校運営協議会

助言・承認



汎用性の高い活用可能な好事例を普及し他校での展開を図る

県内すべての高校（専門高校・普通高校）への普及

産業界・地域と共にあるキャリア教育の定着

## ①取組み全体の運営

運営委員会、事業推進委員会

## ②企業等とのマッチング

情産協、工連、市町村、学校、  
県教育委員会（MHSコーディネータ）、県商工労働部

連携

## ③学校内の取組みの推進

校長、副校長、教頭、校内運営委員会、関係校務分掌、  
校内委員会（マイスター・ハイスクール推進委員会等）

連携

## ④よりよい連携授業の実施

教科、授業担当者、産業実務家教員

## 従来の取組みに見られた課題

従来は②と④を**一部の教員が担い**、実施していたケースも多く、**負担が集中**する傾向があった。  
そのことが、**取組みの属人化**に繋がり、**持続可能な取組とならない**ケースもあった。

## 解決策

機能の階層化・組織化を意識した  
産業人材育成プラットフォームの構築

## 【見込まれる効果】

- 異動にも強い**持続可能な組織同士の仕組み**
- 教職員の負担分散**（マネジメントと実践の階層化）
- 目的に応じた企業・団体とのマッチングの容易性**
- 教員がよりよい授業づくりに専念できる環境**

## 2

# 熊本県版マイスター・ハイスクールの事業構造

CEOの果たしてきた役割（機能）を分割・階層化し、連携にかかる負担を軽減 → 持続可能な産業人材育成エコシステムの構築

### つなぐ（①、②）

#### 産官学金との連携プラットフォームの構築

持続性があり、広がりのある繋がりにする

#### 学校と企業・団体とのマッチング

県教委・県商工労働部  
市町村・肥後銀行・情産協・工連

県教委・県商工労働部  
産学連携コーディネーター  
市町村・肥後銀行・情産協・工連  
地域の経済団体等・学校

### 進める（③）

#### 産業界との対話をとおした育成すべき資質・能力の再定義

学校の取組みの方向付け・持続化に向けた組織化

#### 産業界との協働によるカリキュラムの刷新

学校と産業実務家教員・連携企業等

### 実践する（④）

#### 学科（教科担当）と産業実務家教員と連携した取組

企業の技術者による授業・実習

企業における体験型の実習

産官学連携した探究型の学び

# 令和6年度の普及促進に 向けた取組み

## 3

## 令和6年度の普及促進に向けた取組

## 取組1 市町村単位の産学官金連携のエコシステムの構築に向けた取組

拠点校の立地する4自治体への事業説明

拠点校の立地する肥後銀行4支店への事業説明

## 取組2 産業界の理解と連携促進に向けた取組

経済団体の総会等での事業周知（連携構築に向けた取組）

連携産業団体の拡充に向けた事業周知

産業8団体を対象としたアンケート調査の実施

## 取組3 新規拠点校の自律的で持続可能な取組に向けた取組

新規拠点校の主体性を重視した校内組織化・マネジメントに向けた取組

産学連携コーディネーターの活用

産業界と連携した学びの実践に向けた取組・拠点校研修

## 取組4 全県立高校への展開を見据えた地域（産官学等）と連携の実態把握

県立高校の産学連携実態調査

## 3

## 令和6年度の普及促進に向けた取組

## 取組1 市町村単位の産学官金連携のエコシステムの構築に向けた取組

拠点校の立地する4自治体への事業説明

拠点校の立地する肥後銀行4支店への事業説明

## 取組2 産業界の理解と連携促進に向けた取組

経済団体の総会等での事業周知（連携構築に向けた取組）

連携産業団体の拡充に向けた事業周知

産業8団体を対象としたアンケート調査の実施

## 取組3 新規拠点校の自律的で持続可能な取組に向けた取組

新規拠点校の主体性を重視した校内組織化・マネジメントに向けた取組

産学連携コーディネーターの活用

産業界と連携した学びの実践に向けた取組・拠点校研修

## 取組4 全県立高校への展開を見据えた地域（産官学等）と連携の実態把握

県立高校の産学連携実態調査

3

令和6年度の普及促進に向けた取組

取組 1

市町村単位の産学官金連携のエコシステムの構築に向けた取組

①

拠点校の立地する自治体への事業説明

拠点校が立地する市町村が、学校と一体となって、将来の地域社会を支える人材育成に取り組む

| 年度    | 市町村自治体の動き                                                                        | 効果                                                    |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 令和6年度 | ○管内の企業情報提供                                                                       | 市町村・経済団体・産学連携コーディネーターが連携した企業と学校のマッチング                 |
|       | ○市が管内企業に高校の取組を案内・周知                                                              | 管内企業が、学校が学校を知る取組（共に先端技術を学ぶ機会等）                        |
|       | ○学びのアウトプットの機会創出<br>○小中学校への魅力発信の機会の創出                                             | 地域住民や小中学生や自治体が高校の学びを知る機会の創出                           |
|       | ○高校の探究学習の支援                                                                      | 地域の実際の課題を連携して解決する体験をとおした実践的な課題解決能力の育成、地域社会・地域産業への深い理解 |
| 令和7年度 | ○管内企業が集まる会議等を活用し、市と学校が協働して、マイスター・ハイスクールの取組を周知予定<br>○マイスター・ハイスクールの取組を市ホームページに掲載予定 |                                                       |

②

拠点校の立地する肥後銀行の支店への事業説明

各地域を支える金融機関が、地域社会や産業が抱える課題と学校を繋ぐなど、探究的な学び等を支援する

| 取組         | 概要                                 |
|------------|------------------------------------|
| 地域課題と学校を繋ぐ | 地域課題・産業課題を学校と共有し、解決に向けた課題解決活動を支援する |
| 連携先と学校を繋ぐ  | 協働して課題の解決に向けてあたることのできる企業等と学校を繋ぐ    |

## 3

## 令和6年度の普及促進に向けた取組

## 取組1 市町村単位の産学官金連携のエコシステムの構築に向けた取組

拠点校の立地する4自治体への事業説明・

拠点校の立地する肥後銀行4支店への事業説明

## 取組2 産業界の理解と連携促進に向けた取組

経済団体の総会等での事業周知（連携構築に向けた取組）

連携産業団体の拡充に向けた事業周知

産業8団体を対象としたアンケート調査の実施

## 取組3 新規拠点校の自律的で持続可能な取組に向けた取組

新規拠点校の主体性を重視した校内組織化・マネジメントに向けた取組

産学連携コーディネーターの活用

産業界と連携した学びの実践に向けた取組・拠点校研修

## 取組4 全県立高校への展開を見据えた地域（産官学等）と連携の実態把握

県立高校の産学連携実態調査

## 取組2

## 産業界の理解と連携促進に向けた取組

③

## 産業界の総会等での事業周知 連携構築に向けた取組

熊本県情報サービス産業協会 総会及び人材委員会

熊本県工業連合会 総会

熊本県建設業協会 総会

肥後銀行 地域振興部

熊本県中小企業家同友会 経営フォーラム

④

## 連携産業団体の拡充に向けた事業周知・アンケートの実施

熊本経済同友会

熊本県中小企業家同友会

熊本県中小企業団体中央会

熊本県商工会連合会

熊本県商工会議所連合会

熊本県経営者協会

## ○産業界の認知度や連携への意向把握に向けたアンケート実施

## アンケート項目（一部抜粋）

「マイスター・ハイスクール」の認知度

学校と産業界、地方自治体等が連携した人材育成は必要か

現在、高校と連携した取組を行っているか

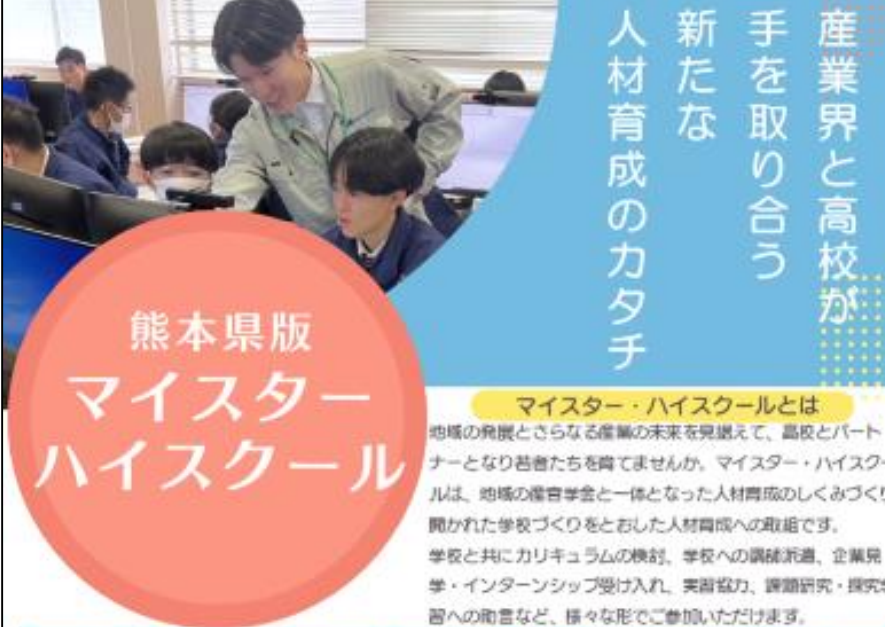
今後、高校と連携して人材育成に取り組む意向はあるか

連携した人材育成に取り組む場合、どんな内容を提案できるか

## ①周知に向けた取組へ

Instagram・ポータルサイト  
熊本県ブライト企業

## ②インターンシップ

データベースとの融合・活用へ  
企業の連携への意向やリソースを  
集約し、既存のデータベースの  
充実を検討


市町村自治体・熊本県情報サービス産業協会・肥後銀行  
熊本県工業連合会・その他協力団体・協会等  
産学官金連携人材育成エコシステムによるマッチング支援

高校

企業・団体等

【参加校】八代工業高校・玉名工業高校  
阿蘇中央高校・天草工業高校  
※R6年から全県立高校で連携開始

産業界や各企業・団体等の得意や強みを人材育成に活用！課題研究・探究学習への助言等、高校生の学びを応援！

POINT1 / 「人材育成」が共通目標  
産業界と学校がお互いを知り、相互理解を基に、これから必要とされる人材育成のビジョンを共有。いかに育てるか意見交換を図ります。

POINT2 / 地域の産業・企業を知る機会  
地元どんな産業や企業があるのか、生徒が知ることは、未来の選択肢の1つとなります。また、地域貢献への意欲を学校と共に育みます。

POINT3 / 授業・インターンシップ支援  
企業等を取り入れている最先端の技術や知識を授業や実習で活用。DXなど急速に変化する時代を担う人材を、学校とパートナーとなり育みます。

管理機関  
熊本県教育委員会  
熊本県商工労働部

参考  
文部科学省HP  
マイスター・ハイスクール  
(次世代地域産業人材育成取組事業)

八代工業高校HP  
マイスター・ハイスクール  
R2～5年 指定校  
R6～7年 先導校

## 3

## 令和6年度の普及促進に向けた取組

|     |                                  |
|-----|----------------------------------|
| 取組1 | 市町村単位の産学官金連携のエコシステムの構築に向けた取組     |
|     | 拠点校の立地する4自治体への事業説明               |
|     | 拠点校の立地する肥後銀行4支店への事業説明            |
| 取組2 | 産業界の理解と連携促進に向けた取組                |
|     | 経済団体の総会等での事業周知（連携構築に向けた取組）       |
|     | 連携産業団体の拡充に向けた事業周知                |
|     | 産業8団体を対象としたアンケート調査の実施            |
| 取組3 | 新規拠点校の自律的で持続可能な取組に向けた取組          |
|     | 新規拠点校の主体性を重視した校内組織化・マネジメントに向けた取組 |
|     | 産学連携コーディネーターの活用                  |
|     | 産業界と連携した学びの実践に向けた取組・拠点校研修        |
| 取組4 | 全県立高校への展開を見据えた地域（産官学等）と連携の実態把握   |
|     | 県立高校の産学連携実態調査                    |

# 3

## 令和6年度の普及促進に向けた取組

### 取組3

新規拠点校の自律的で持続可能な取組に向けた取組

#### ⑤

新規拠点校の主体性を重視した校内組織化・マネジメントに向けた取組

#### 校内組織の設置・運営

校務分掌に位置付けた委員会等を設置・定期的な進捗報告会等の実施

#### 校内の共通理解

全職員が共通認識と当事者意識を図る研修・取組の実施  
持続可能な取組に向け、学校と産業界が互いに過度な負担にならない配慮

#### 協働したいことの整理

産業界と①～⑤の視点を共有し、対話しながら取組内容を整理（学校だけで決めない）  
①対象教科（科目） ②連携を図りたい内容 ③連携により習得を目指す知識・技術  
④連携により育みたい資質・能力 ⑤キャリア教育の視点で期待する効果

#### 成長型の取り組みに向けて

○授業に至るまでの産業界との対話（双方の理解のプロセス）  
○対話をもとに、持続的なカリキュラム改善のサイクルの確立（PDCA）  
①現状の授業や年間計画を産業界に示し、意見交換 ⇒②授業設計（目的や実施時期の合意形成）  
⇒③実施後の成果と課題の整理 ⇒④次年度にむけた計画

⑥

## 産学連携コーディネーターの活用



- 新規拠点校を訪問してのニーズの聞き取り
- 学校が希望する企業訪問・学校と企業の調整・協議同行
- 学校の要望に応じた連携企業の提案・企業との調整
- 拠点校が立地する自治体を訪問し、管内企業の情報収集
- 県内の連携企業・団体の開拓
- 本課他コーディネーター・スーパーバイザーとの連携

○新規拠点校の今年度新規の連携企業数と企業等との対話の内容

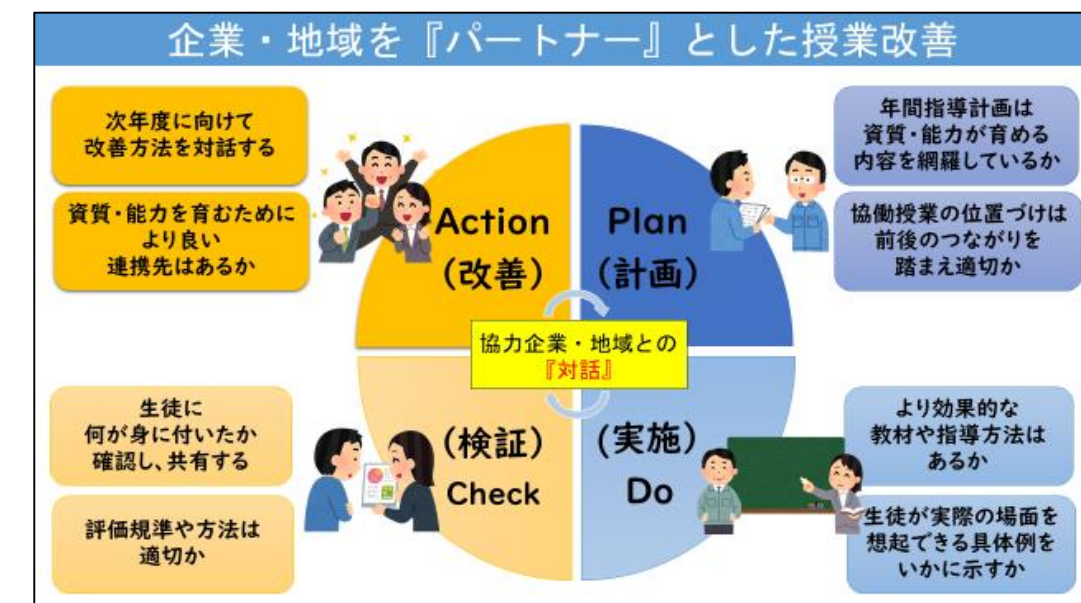
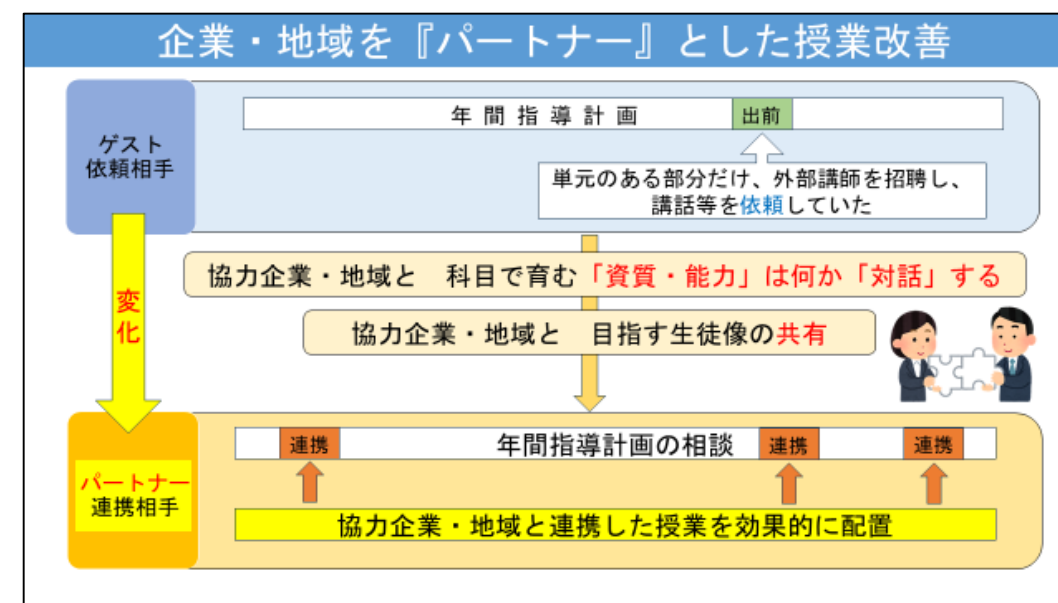
| 新規<br>拠点校 | 令和6年度<br>新規<br>連携企業 | 学校と企業等との対話内容         |         |       |
|-----------|---------------------|----------------------|---------|-------|
|           |                     | 育成したい資質・<br>能力のすり合わせ | 実施手段の検討 | 教材の検討 |
| 玉名工業      | 16社                 | 15社                  | 16社     | 12社   |
| 阿蘇中央      | 14社                 | 8社                   | 13社     | 12社   |
| 天草工業      | 11社                 | 6社                   | 7社      | 3社    |

⑦

## 産業界との連携した学びの実践に向けた取組

- 校内定例会等への参加
- 拠点校4校の研究主任の情報共有クラスルーム開設
- 学校が取組の進捗状況を確認するアセスメントシート作成へ着手

○校内研修資料の提供



## 拠点校研修（先導校のノウハウの共有）

- 1 期日 令和6年12月2日（月）  
 2 場所 八代工業高等学校  
 3 参加者 49名 学校関係者：19名 産業界：18名 自治体：2名  
 運営委員：1名 教育委員会：9名（コーディネーター含む）  
 4 内容

|      |                                                                                                                                            |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業参観 | 科目：「工業基礎」<br>クラス：情報技術科 1年生(41名)<br>授業者：産業実務家教員：株式会社KIS 村内 卓也 様<br>情報技術科 主任 山下 辰徳                                                           |
| 実践報告 | (1)八代工業高等学校 情報技術科 主任 山下 辰徳<br>(2)産業実務家教員<br>株式会社KIS経営管理本部経営企画部 村内 卓也 様<br>(3)事業推進委員アドバイザー・八代工業高校事例解説<br>一般社団法人 熊本県情報サービス産業協会<br>参与 富松 篤典 様 |
| 協議   | ・学校内で産業界と連携した学びを持続的に取り組む工夫について<br>・産業界が学校とともに産業人材育成に取り組む魅力について                                                                             |

## 5 事後アンケートより

- 社会（産業）と学びのギャップを埋める点で効果を得ている。  
 ○具体的な知識技術よりも、なぜその知識技術を学ばないといけないかを教える方が有意義。  
 ○参加を検討している企業は「どんな授業をしなければいけないのか分からない」状態である。実績のある企業と共有できた点は良くも悪くも一歩進む材料になった。  
 ○産学官の間に必要なのはどのような対話なのか、その本質について議論できてよかった。  
 ○外から見た高校生の姿を聞くことができ、求められる人物像をもっと積極的に生徒に示していきたい。  
 ○学科で育てたい生徒像を企業にもお伝えし、分かってもらうことが必要  
 ○富松様の報告で、マイスターハイスクールをなぜ実施するのか「考え方」を共有することが大切であることが印象的だった。  
 ○実際の授業を見学させていただき、企業の方々との対話の重要性を再認識することができた。  
 ○カリキュラムの組み立て方等について先生方から直接お話を伺うことができた  
 ○企業の方がどのような思いで産業実務家教員をされているかをお聞きすることができた。理念や目的の明確化が大切なのだと感じた。



授業参観



実践報告



協議

## 3

## 令和6年度の普及促進に向けた取組

|     |                                  |
|-----|----------------------------------|
| 取組1 | 市町村単位の産学官金連携のエコシステムの構築に向けた取組     |
|     | 拠点校の立地する4自治体への事業説明               |
|     | 拠点校の立地する肥後銀行4支店への事業説明            |
| 取組2 | 産業界の理解と連携促進に向けた取組                |
|     | 経済団体の総会等での事業周知（連携構築に向けた取組）       |
|     | 連携産業団体の拡充に向けた事業周知                |
|     | 産業8団体を対象としたアンケート調査の実施            |
| 取組3 | 新規拠点校の自律的で持続可能な取組に向けた取組          |
|     | 新規拠点校の主体性を重視した校内組織化・マネジメントに向けた取組 |
|     | 産学連携コーディネーターの活用                  |
|     | 産業界と連携した学びの実践に向けた取組・拠点校研修        |
| 取組4 | 全県立高校への展開を見据えた地域（産官学等）と連携の実態把握   |
|     | 県立高校の産学連携実態調査                    |

# 3

## 令和6年度の普及促進に向けた取組

### 取組 4

県域普及を見据えた 県立高校の地域（産官学等）と連携の実態把握

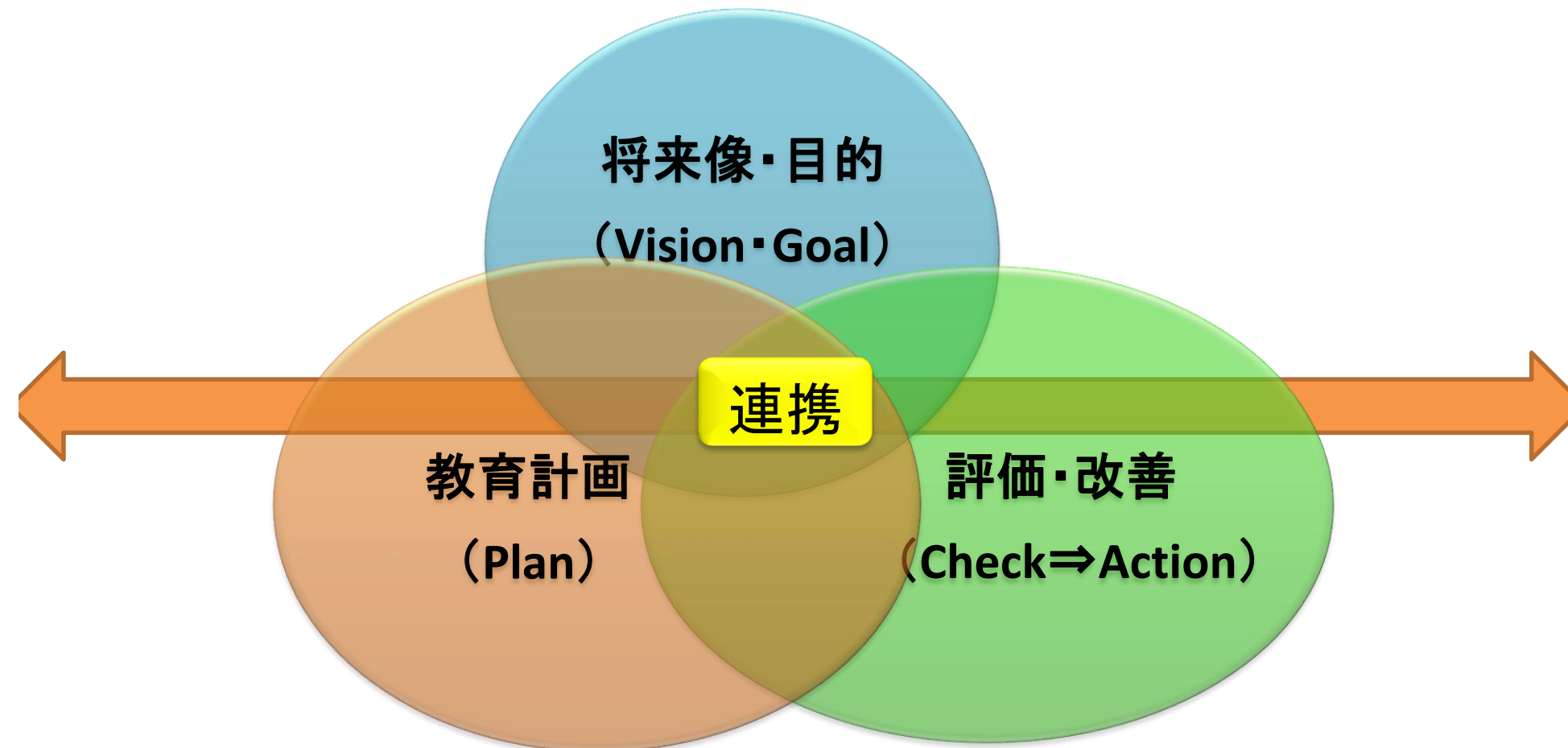
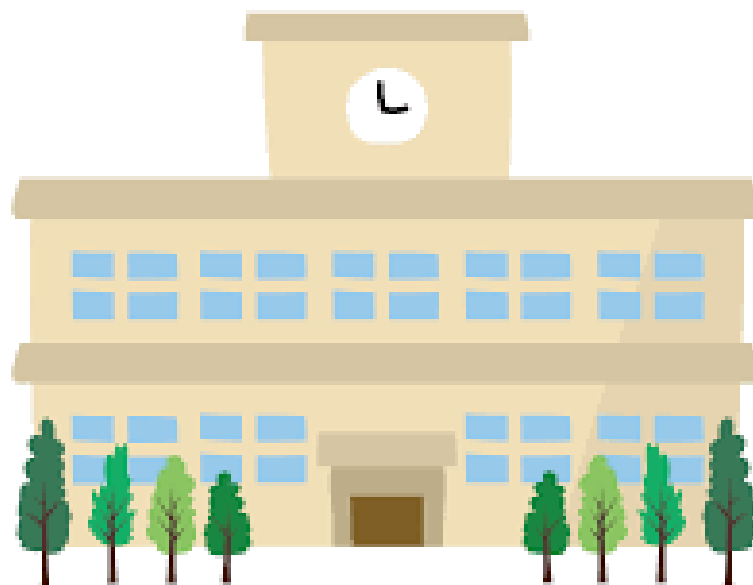
⑨

**実態調査：地域（産官学等）と連携したキャリア教育の取組**を実施している  
県立高校の割合（対象：令和5年度の実践）

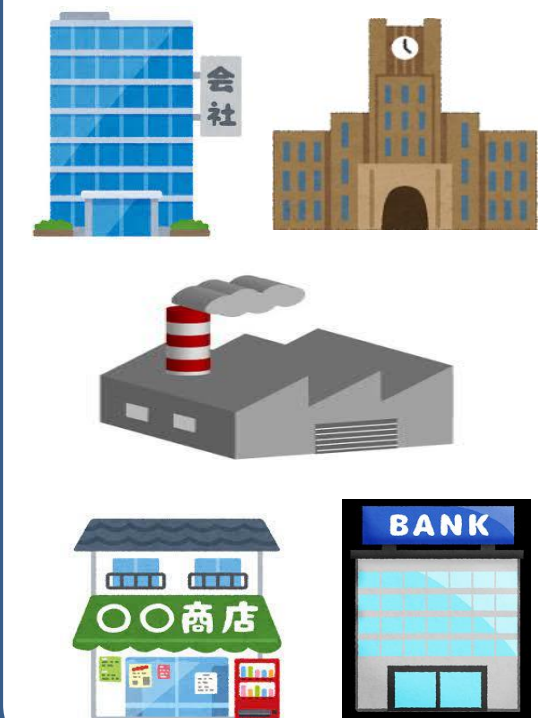
調査

● 「目標の設定（P）」、「授業計画（P）」、「評価・改善（C・A）」を  
地域（産官学等）と連携して実践したか

学校組織  
（キャリア教育プラン）



産学官金



結果

● 地域（産官学等）と連携したカリキュラム刷新を1事例以上実践している学校数  
**27校（全体の51.9%）**

対象：県立高校52校（全日制）校舎・分校は分けて計上

# 令和6年度の各拠点校の取組

各学校のマイスター・ハイスクールビジョンの策定  
育成したい資質・能力の整理  
校内組織の校務分掌化  
授業・実習・探究的な学びの実践  
対話から作るカリキュラムとその改善のサイクル

## 学校教育 目標

各種先端デジタル技術を習得し、自ら考え、課題解決に取り組む創造的エンジニアの育成を目指す。  
生徒が高い志と夢を持ち自己実現が図れる実践的なキャリア教育を推進する。  
県内産業・地域社会とともに、DX社会に対応できる力を育む。

## 育成したい 資質・能力

### コミュニケーションスキル

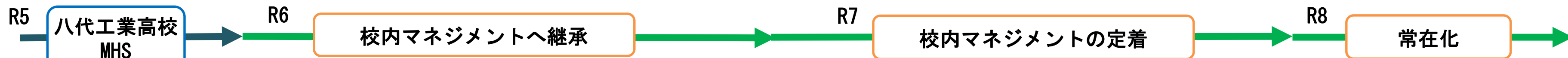
他者の話を聴く（傾聴）、自身の考えを伝える（自己表現力）、自分らしさを表現、他者とのよりよい関係、協働・協力、豊かな言語力

### チャレンジ精神

あきらめない、学びに向かかう力、自主性、主体性、向上心、意欲、学びに魅力を感じる

### 創造力

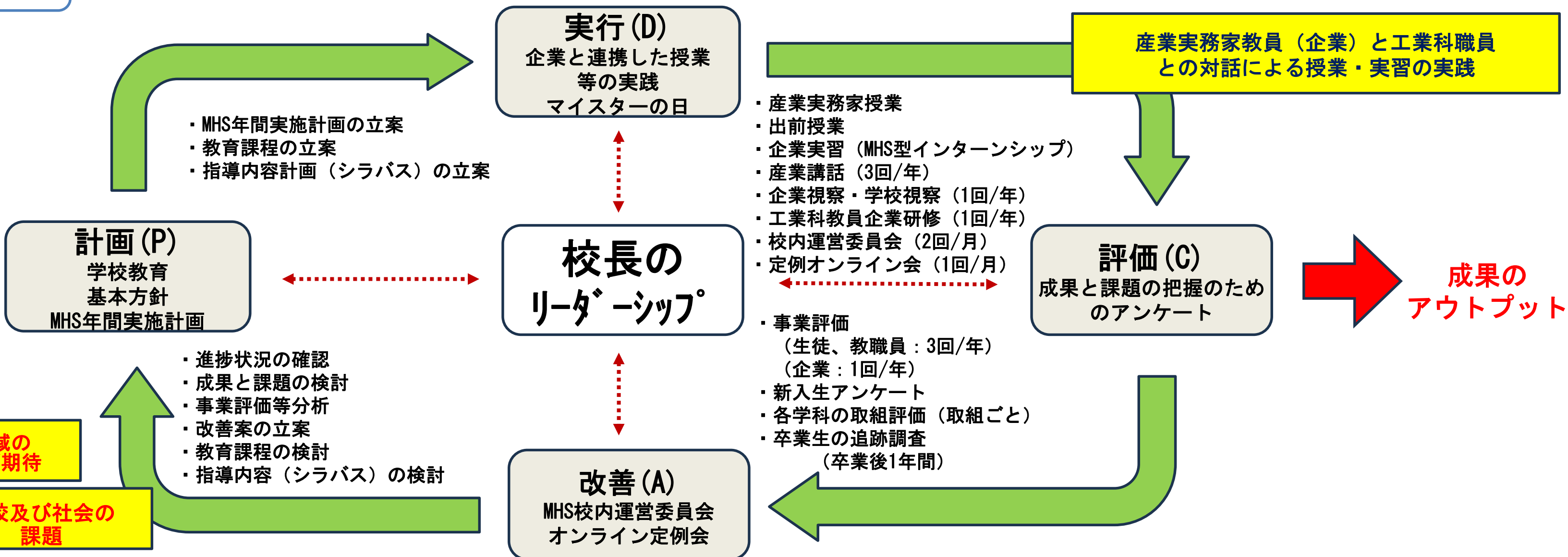
課題発見・解決力、論理的思考力、調査力・考察力・分析力、発想力、ものごとを横断的に捉える力、計画・段取り力



MHS運営委員会  
CEOによるマネジメント

熊本版MHS事業運営委員会・事業推進委員会

## 校内組織



# 本年度の取組概要



熊本県立八代工業高等学校

各学科×  
産業実務家

育成したい  
資質・能力

1年：基礎力  
2年：応用力  
3年：活用力

インテリア科×  
構造計画研究所

建設DXに対応できる人材 ～探求心と創造力の育成～（25時間）

BIMソフトの活用 **「BIMによる課題発表・作図・発表」**

機械科×  
シナジーシステム

時代の変化を捉え、能動的に取り組む人材 ～時代を生き抜く力の育成～（37時間）

DX技術への対応力 **「専科コースの導入」「ロボットアイディア甲子園」**

工業化学科×  
KDS・熊本大学\*

持続可能な社会の発展を支える人材 ～地域連携力と課題追求力の育成～（14時間）

企業や大学と連携した環境教育 **「マイクロプラスチック汚染」「AI技術の産業応用」**

電気科×  
西部電設

電気・通信分野のDXを支える人材 ～電気技術力と課題解決力の育成～（22時間）

最新の電気・通信工事への対応力向上 **「生徒によるものづくり体験教室」**

情報技術科×  
KIS・熊本計算センター

超スマート社会で活躍できる人材 ～新たな課題に立ち向かう力の育成～（16時間）

情報教育、課題解決学習の充実 **「IoT・OS・NW・DB・RPA」「課題研究中間報告会」**

企業実習

令和5年度は、インターンシップ＋企業実習、令和6年度から企業実習一本化へ **※全生徒が企業実習を体験**  
全体指導～グループ面談～オンライン事前打合せ～情報交流会～オンライン報告会

企業視察  
学校視察

熊本城復元工事見学・TKU八代住宅展示場・平田機工・西田鉄工・三菱ケミカル・テラプロブ・くまさんゲイクス・  
アムコー・ルネサス川尻・JNC・MBJ・日研・白鷺電機・本田技研・崇城大学・県立技術短期大学校

自走化  
普及

組織づくり

各種委員会・校内組織

校内運営委員会、**拠点校研修会、コンソーシアム、学校・学科主体のプランづくり**

対話

産業実務家教員・外部

**生徒の成長（育成像）のため必要なもの**、カリキュラムの検討（教育実践/落とし込み）

予算

産業実務家教員による授業・出前授業・企業実習

**職員への技術移行**、合同での出前授業や企業実習、管内管外企業との連携

連携

産業界・地方自治体・地域連携・産業連携コーディネータ

産業講話、**拠点校との情報やノウハウの共有・展開**、企業にとってのメリット など

# 4 熊本県立玉名工業高等学校



熊本県立玉名工業高等学校

マイスター・ハイスクールビジョン

- ①地域とともに、自律的に学び地域を担う産業人材の育成
- ②持続可能なカリキュラムの開発

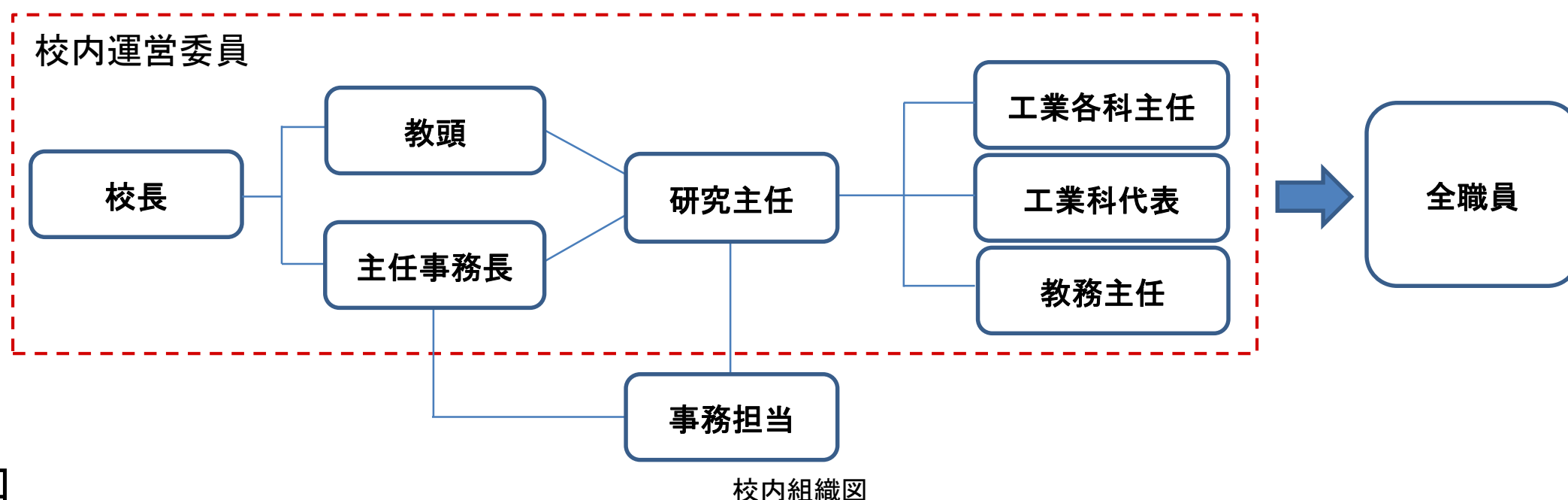
## 育てたい人間像・ビジョン

- ①社会に適応する人間力を持った人材の育成
- ②確かな学力の向上と生徒の希望進路の実現
- ③学校の魅力化、地域とともにある学校づくり

**機 械 科** 先端技術の学びを次世代に繋ぎ、未来を切り拓く人材の育成  
**電 気 科** 地域企業の未来を担い、地域の発展を支える技術者の育成  
**電 子 科** 情報化社会で活躍できる人材の育成  
～主体性・創造性を育むための課題解決型教育の実践～  
**工業化学科** 地球環境に貢献できる化学技術者の育成  
**土 木 科** 高い技術力を持つ地域を担う人材の育成  
～知識・技能・思考力の育成～

## 【校内組織】

- ・校内運営委員（11名）  
校長、教頭、主任事務長、研究主任  
工業各科主任（5学科）、工業科代表、教務主任
- ・校内会議  
校内運営委員会（月1回実施）  
工業科主任会（月2～3回実施）  
定例会（学期に1回実施）
- ・学校運営協議会、教育委員会、玉名市の校内会議参加

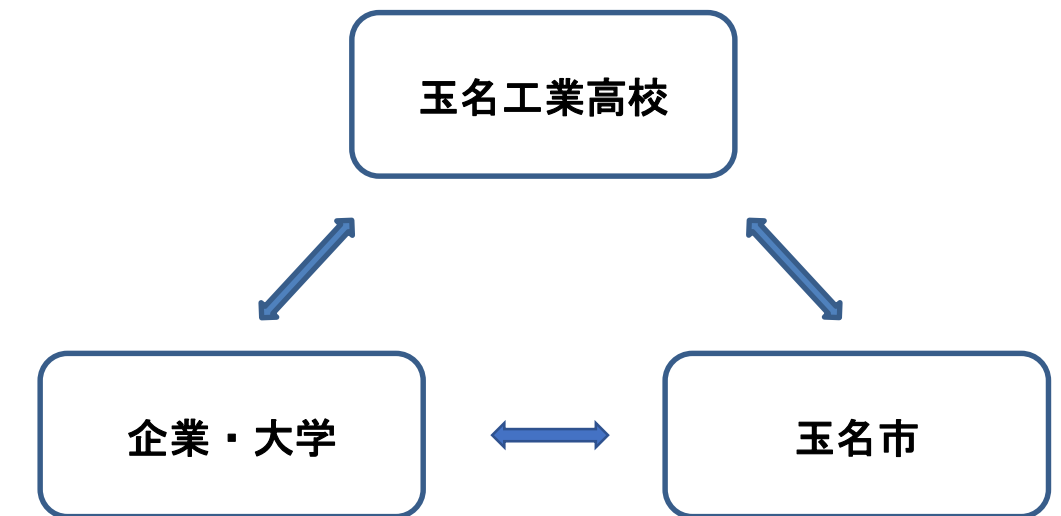




令和6年度 → 令和7年度以降へ向けての連携構築期間

(1) 企業・大学との連携

- ・ **企業連携コーディネーターの活用** → 連携企業の新規開拓
  - ①本校の育成したい資質・能力を共有し、連携可能企業の選定
  - ②企業へのアポイント、本校職員と同席して事業概要説明
- ・ **企業・大学との対話**
  - ①相互の共通理解      本校の希望・要望 ↔ 企業・大学の希望・要望
  - ②持続的な連携のためにできることの模索



(2) 玉名市との連携強化

- ・ **ものづくり教室、公民館講座、各種イベントへの参加・協力** → これまでの連携継続
- ・ **高校まつりinたまな** → 小・中学生（保護者）向け学校紹介プレゼンテーションおよび進学相談会
- ・ **玉名市内高校・大学研究等合同発表会** → 玉名市長へ向け、各校の取組み紹介
- ・ **企業説明会の実施** → 本校での実施、保護者・近隣校への案内（令和7年度以降実施へ向けて検討）
- ・ **玉名版「学びの祭典」** → 実践発表や展示ブース、ものづくり教室（令和7年度以降実施へ向けて検討）

(3) 土木科の取組 … 現場体験に特化した取組

- ・ **建設業協会玉名支部との連携構築**（管内企業の協力）
  - ↳ 現場見学、現場実習、**校内特別実習**、建設業合同説明会
- ・ **熊本県コンクリート診断士会との連携構築** → 現場実習
- ・ **玉名市、日本大学との連携構築** → インフラメンテナンス事業
- ・ **熊本県舗装協会との連携構築** → 舗装実習、舗装区画線工事



校内特別実習で野球場ベンチ部分のコンクリート打ちをしている様子

# 4 熊本県立阿蘇中央高等学校

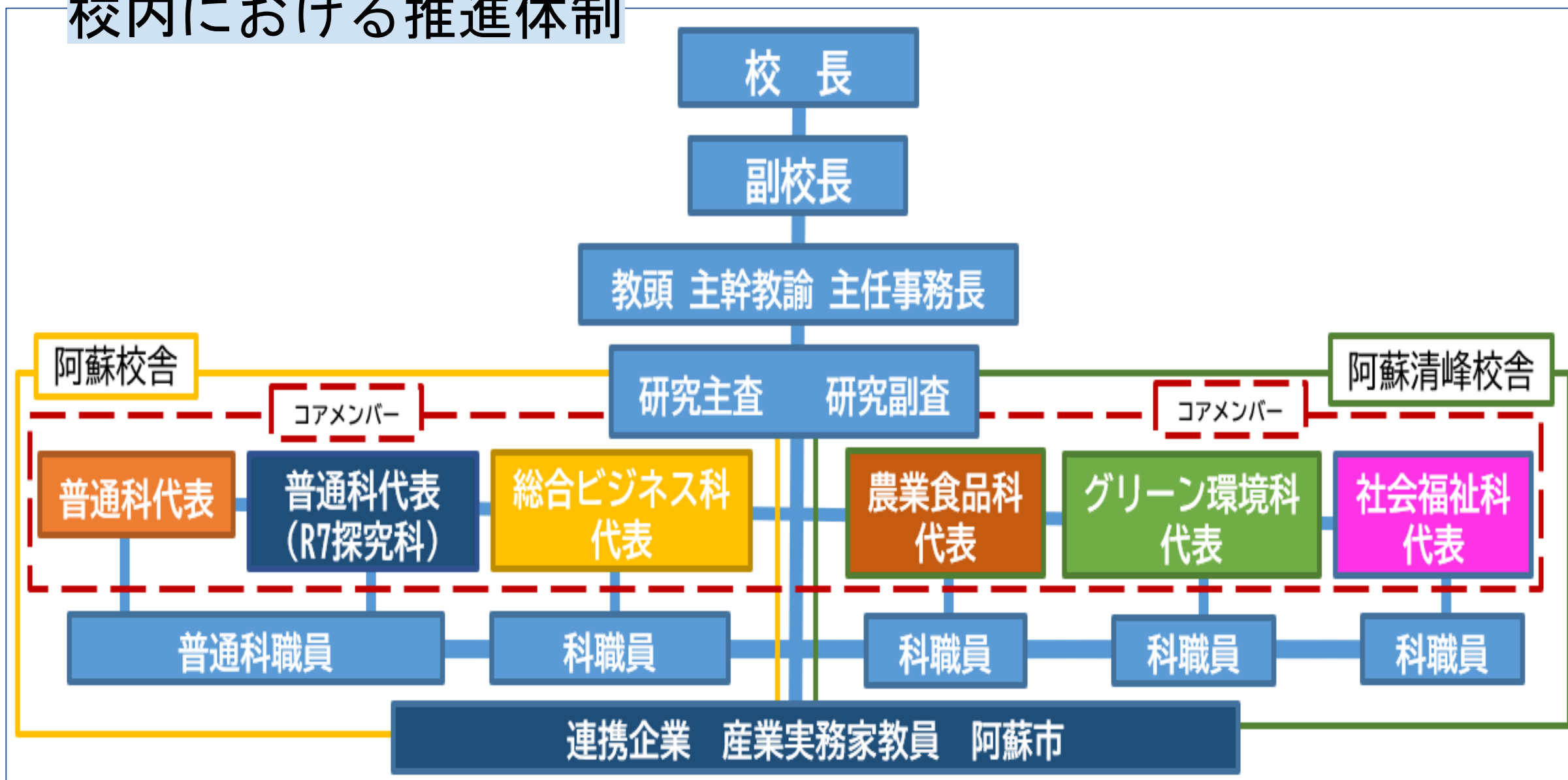
## 阿蘇中央高校マイスター・ハイスクール ビジョン

・阿蘇地域に2つの校舎を持ち普通科と総合ビジネス科、農業食品科、グリーン環境科、社会福祉科の5つ専門学科を有する高校として、社会人基礎力や専門性、さらには未来を切り拓く資質・能力を身につけた、熊本の創造的復興と地方創生に寄与するグローバルな視野をもったリーダーを育成します。

・生徒一人ひとりの個性や能力を最大限に伸長させ、自己実現の達成に向け、きめ細かな指導の充実を図るとともに、探究活動の中心となる「阿蘇学」の学びを重視し、地域の産業や観光の発展に貢献できる教育を目指します。

・熊本県のスーパーグローバルハイスクール事業の取組の成果を生かし、地域や産業との協働を深めていきます。また、学科の枠を超えた科目選択による、学科横断的な学びや系統的なキャリア教育の学びを充実させるなど学校全体の魅力化に努め、持続可能な開発目標（SDGs）の視点を踏まえた教育活動を展開します。

### 校内における推進体制



○職員全体の周知は2回

○コアメンバー会議（学科主任、普通科代表  
計8名）開催（計5回実施 オンライン含）



#### 【会議内容】

- ・今年度の取組状況・情報の共有
- ・次年度の学科ごとの独自性の創出
- ・共通したテーマや教科の検討
- ・他（多）学科横断的な学びの展開

○授業をオンライン配信（1回）

コアメンバーオンライン会議

授業オンライン配信



普通科（R 7～探究科新設）

令和6年度各学科の主な取組および成果と課題

総合ビジネス科



上級学校での専門的で深い学びにつながる基礎力となる論理的思考力と表現力を育成することで、未来を切り拓く資質・能力を身につけたグローバルな視野を持ったリーダーの育成する。

普通科の取組に苦慮

| 内容        |         |     |
|-----------|---------|-----|
| 読解力トレーニング | 普通科1～3年 | 壺溪塾 |

農業食品科（R 7～農と食の科学科）



地域の農業や食品産業、地域社会の持続的な発展を推進させるグローバルな視野を持ったリーダーを育成する。

連携協定先を中心に取組を展開

| 内容         | 学年        |              |
|------------|-----------|--------------|
| スマート農業     | 1.2年担い手類型 | 中九州クボタ 講義・実習 |
| 家畜の飼育 畜産経営 | 2.3年畜産専攻  | 高森町役場 小倉原牧場  |

グリーン環境科（R 7～緑と水の科学科）



作物・森林・農業土木の持続的な発展に貢献できるよう、グローバルな視野を持ったリーダーを育成する。

連携協定先及び新規連携先も開拓し、取組を展開

| 内容         |         |              |
|------------|---------|--------------|
| 最先端測量技術研修  | 2年測量    | 旭技研コンサルタント   |
| 防災を考えた街づくり | 3年課題研究  | 旭技研コンサルタント   |
| 植林実習       | 2年林産物利用 | 阿蘇市役所 阿蘇森林組合 |

人と人、人ともものをつなぎ、地域課題をビジネスの力で解決に導くことのできる、グローバルな視野を持ち持続的な地域社会の発展に寄与するビジネスリーダー（スマート産業人材）を育成する。

連携協定先及び新規連携先も開拓し、取組を展開

| 内容          |            |             |
|-------------|------------|-------------|
| コミュニケーション講座 | 1年ビジネス基礎   | 阿蘇テレワークセンター |
| ソフトウェアの活用   | 2年ソフトウェア活用 | D-HORIZON   |
| 遵法教育／倫理教育   | 3年ビジネス法規   | 阿蘇税務署       |



社会福祉科

幅広い視野を持ち、他者と協働できる資質・能力を育み、地域の福祉分野を支え、持続的な発展に貢献できるグローバルな視野を持ったリーダーを育成する。

新規連携先を開拓し、取組を展開

| 内容      |           | 連 携 先              |
|---------|-----------|--------------------|
| 介護実習・発表 | (全)生活支援技術 | 障害者支援施設たちばな園(他2施設) |
| 社会福祉協議会 | 1.2年生     | 熊本県合志市社会福祉協議会      |



成果

生徒を中心にした授業の構成、企業マインドの理解など中・長期的教育活動や生徒育成ビジョンに対する見かた・考え方に深みが増し、教師の変容が感じられた。

課題

- ・ビジョンの共有など連携企業との対等な関係性をどう構築していくのか。
- ・どのように、マイスター事業を深化させていくのか。

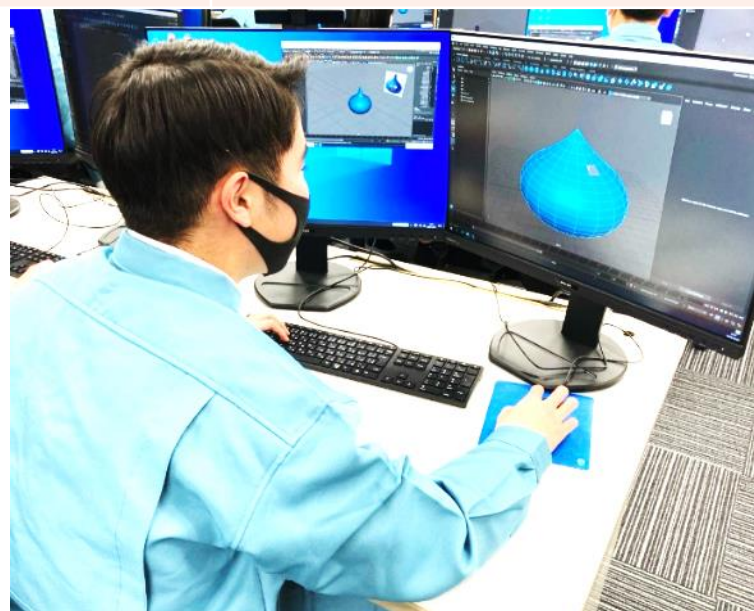
## マイスター・ハイスクールビジョン

- ・校訓「温厚」「誠実」「勤勉」のもと天草地区にある工業系学科の高校としてSociety5.0に対応する専門知識や技術を持ち、産業界に貢献できる技術者を育成する。
- ・コミュニケーションスキル等の向上を図り、地域の魅力ある資源を理解し、地域コミュニティを担う人材を育成する。

## 校内組織

校長・副校長・教頭・事務長・教務主任・進路指導主事・将来構想部長・工業科代表・事務会計担当

| 学科    | 令和6年度の実組                                              | 令和7年度の方性                                        |
|-------|-------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 情報技術科 | 産業実務家教員による授業・部活動指導<br>(週3時間・毎日放課後2時間)                 | 評価方法の精度を向上させる<br>(ルーブリック評価の方法や、2系列の評価の差異についてなど) |
| 土木科   | 地元のコンサル企業と連携し測量実習を実際の業務と同工程で実施(作業計画→現地調査→測量→図面→報告書制作) | 企業連携授業の内容と学校のカリキュラムを同期し、相乗効果が生まれるように工夫          |
| 電気科   | 天草電気工事業協同組合等と協力し、天草市内のイルミネーション設置における電気配線やLED取付を実施     | 連携企業等とどのような授業ができるか整理し、教育課程への定着を図る               |
| 機械科   | 県の専門高校生インターンシップ事業を活用し、製造業での宿泊型研修を実施                   |                                                 |



情報技術科



土木科



電気科



機械科

# 令和6年度の成果と課題

## 成果・課題

## 連携プラットフォームの構築

経済団体・基礎自治体との対話により、協力体制が構築できた

基礎自治体と学校の関係がより強固なものとなった（校内推進会議への参加など）

試行段階の域を出ないが新しいマッチングが機能し始めた

プラットフォームの活用に係る手順等の定めがなく、学校からの活用しにくさがある

プラットフォームにおいて各関係機関の役割が曖昧で各機関が動きにくい

マイスター・ハイスクール事業の産業界や小中学生への広報活動が不十分

## 学校の組織的な取組み

各学校とも校長のリーダーシップによる取組みが実施され、連携した取組みが増加した

校務分掌に産学官金の連携が位置付けられた

校内組織の定着（報告会としてのみの機能、課題の共有・解決が不十分な例も）

共通教科も含めた全ての教員による理解が進んでいない

新しい取組みに対する意識の硬直化が解消していない

## 成果・課題

## 産学官金が連携した産業教育の充実（授業・実習・探究的な学び等への取り組み）

各学校において産官学金と連携した取り組みが増加した

産業界と身に付けさせたい資質・能力や習得させたい知識・技術の議論に至った例も

市役所や産業界からの提案による取り組みが生まれた（双方向性）

取り組みに関する属人性が払拭されていない状況も

単発的な取り組みが多く、カリキュラムへの反映や改善に至っていない

普通科における連携の方向性が見いだせていない

## CEOの役割について（当初想定課題）

産業界と学校を繋ぐ役割は、情産協、市町村、コーディネータにより一定の成果

繋ぐ役割が一元化されたおらず、何をどこが繋ぐのかが不明瞭

校長のマネジメントにより、校内組織によるマネジメント機能が機能し始めた

コンスタントな開催による、プロアクティブな組織対応に至っていない

## 成果・課題

## 産官学金の目線をどう合わせるか（当初想定課題）

熊本県版マイスター・ハイスクールビジョンの策定

産業界、基礎自治体とそれぞれのインセンティブを認め合った関係づくり

経済団体単位での理解が進んだ（8団体訪問）

個々の企業に対する理解促進の一層の取組みが必要

個々の企業にとっての参加の動機付けが困難

## 自律的・持続的な取組みにするためにはどうしたらよいか？（当初想定課題）

学校がマイスター・ハイスクールビジョンの策定

学校組織の取組みとして進み始めた

校内組織の運用についての検討が必要（開催タイミング、取り扱う内容等）

全ての教職員の共通理解のもと、取組みを進めていく必要がある

令和8年度以降の他校の参考となるドキュメント等の作成

## 必要なリソースをどうするか？（ヒト・モノ・カネ）（当初想定課題）

産学官金との対話をとおして、対応策について検討していく

# 5 次年度に向けて（重点化するポイント）

## 01 連携プラットフォームの確立

- ・ 活用手順の明確化
- ・ 各関係機関の役割の共通理解
- ・ 連携企業の拡大
- ・ 周知・広報活動の充実
- ・ 令和8年度以降の在り方の検討  
（必要リソースの確保含む）
- ・ 成果測定

## 02 学校の組織的取組の推進

- ・ 校内組織の効果的な運用
- ・ 全職員による共通理解
- ・ 管理職の困り感の解消
- ・ 学校が現状を把握し、計画策定に資する  
アセスメントシートの完成・活用

## 03 産学官金が連携した産業教育の充実

- ・ 特定の職員によらない取組みの推進
- ・ 対話によるカリキュラム改善のPDCA  
サイクル確立
- ・ 対話のためのドキュメントシート等の改善

熊本県教育委員会 ・ 商工労働部